

4 安心・安全な居場所の役割を考える

不登校・ひきこもり状態の当事者にとって、安心・安全な居場所とはどんな所なのでしょうか。

安心・安全に過ごせる「自宅」以外に社会につながる居場所としてどんな所があるのでしょうか。自宅から出て行ける「安心・安全な居場所」では支援者たちがどんな働きかけをしているのでしょうか。さまざまな事例を取り上げながら、それぞれの支援者の役割を紹介していきます。

(1) 教育支援センター

県内の教育支援センター



市町村教育委員会が設置する施設で県内に40カ所（2024年5月現在）あり、教科の学習体験活動、カウンセリングなどが行われています。

■ 教育支援教室「にじの家」（前橋市）

市内在住で、学校に行くことや教室に入ることに困難を抱える状態が続いている児童生徒の居場所として開設しています。

通室している児童生徒の多くは、自分のタイミングで通い、持参した教材で自主学習に取り組んでいます。指導員は、児童生徒の様子を見ながら必要に応じて学習支援を行っています。



通室し始めて間もない児童生徒や、目標が定まらず取組に意欲がもてない児童生徒に対しては、指導員が声かけを行って心をほぐしたり、児童生徒の興味があることを一緒に行ったりすることで、児童生徒が自ら目標をもって学習できるように支援しています。

学習をした後は、通室している児童生徒と指導員と一緒にトランプや昔遊びなどの活動を通して、交流を図っています。こういった交流を楽しみに通室している児童生徒もいます。

また、令和5年度より、青少年支援センター所属の心理師が市内4箇所の教育支援教室を毎週順番に訪問し、通室している児童生徒の様子を観察したり、コミュニケーションをとったりしてアセスメントを行っています。希望する児童生徒や保護者との面談も行っており、定期的な面談を通して児童生徒や保護者の不安の解消に努めています。さらに、アセスメントした内容を指導員と共有し、児童生徒への支援方針の参考にするなど、日々の取組に生かしています。

つなサボ家庭向け説明資料



■ 新しい学びの場「つなサボ」（群馬県総合教育センター 令和6年6月開設）

県内の小・中・高・特・中等・義務教育学校に在籍し、原則30日以上学校に通学できていない状態が続いている児童生徒を対象に3Dメタバースを用いたオンライン支援「つなサボ」を開設しました。

ガイアタウンという仮想空間で、好みのアバター（分身）を作り、音声やチャット、ジェスチャーなど自分で選んだ表現方法を使って活動できるため、対面でのやり取りに苦手を感じる子供たちにとって取り組みやすい、新たな学びの場になっています。

自宅のパソコンから平日10時～15時まで自由に出入りできますが、みんなで活動できる時間や各自で学習できる時間、自由に過ごせる時間などのスケジュールをあらかじめ示したり、イベントやカウンセラーに相談できる日をHPで公開したりなど、参加しやすい工夫をしています。学校を通しての登録となりますが、「つなサボ」入室後も学校や家庭、関係機関との連携をきめ細かく行い、一人一人に寄り添った対応を行えるよう努めています。利用した児童生徒からは「ジェスチャーなどで楽に自分の気持ちを伝えられる」「ためになる話が聞けたり天文台などとのイベントがあったりして楽しい」、保護者の方からは「生活が規則正しくなった」「会話が増えた」、学校からは「学習履歴や活動記録を毎月送付してもらえるので、本人に会えた時に話題がたくさんある」といった声が寄せられています。



クリスマス会の様子

(2) フリースクール

群馬県HP（フリースクールの紹介）



それぞれの独自性を持ちながら、子どもの社会的自立を支援する民間の団体です。
教科の学習、体験活動、自宅で過ごしている子どもたちなどへの支援を行っています。

■ 安心して失敗できる場所 フリースクールあおば（太田市）



学校に行きづらくなった子どもたちの安心できる場所として「あおば」はあります。理由はみんなそれぞれ。どんな理由であっても、一人ひとりがあおばで安心して心と身体の充電をできるように、私たちスタッフは子どもたちとゆっくり過ごしています。

あおばが大切にしていることは安心して過ごしてもらうことももちろんですが、「安心して失敗できること」もとても大切に考えていることです。あおばで失敗しても責められない、怒られない、笑われない。失敗しても別にいいんだ、みんなと同じことができないことが悪いことじゃないんだ、、、！！そのためにはスタッフが子どもたちの目線に合わせ、寄り添い、彼らのペースでゆっくりと一緒に歩いていくことが必要だと思っています。

勉強をすることに重きを置いていないので、勉強をする働きかけはしていません。ゲームをして過ごしたり、絵を描いたり、スタッフとおしゃべりをしたり。漢字検定などに挑戦してみようかな、という子や、英語を少し勉強してみたい、機械の故障を直せるになりたい、など、一人一人の興味関心に一緒に取り組みます。

年に何回か、学校に行きづらい子や発達の特長を持つお子さんの保護者が集まる「親の会」を開催しています。あおばの利用有無関係なく参加できます。保護者がほっとできると、それがこどもにも伝わると考えています。



月数回のクッキング教室
太田市支援で月1回給食も

■ その子の「やりたい」心から応援 まなびバ！シリウス（館林市）



まなびバ！シリウスは、安心できる居場所であり、その子の「やりたい」を心から応援している学びの場です。子ども自身が「自分で考える」「自分が決める・選ぶ」ことを大切にしています。

そのため、自分にとって心地よくいられる場（対面・オンライン・掲示板）やプログラム内容（活動・探究・教科学習等）を子どもが選べるよう、さまざまな選択肢を作っています。

※以下、2025年1月現在情報

- ・対面の部（週3～4回）：参加したい内容の時に参加
- ・オンラインの部（週3～4回）：上に同じ。画面・マイクオンオフや掲示板だけの参加も選べる
- ・オープンシリウス（週1回）：経済的・心理的なハードルを親子が感じることはないよう、入会している・いないにかかわらず、小中学生誰でも無料で単発参加できる 対面でのオープンプログラム



- ・マンツーマンでのサポートを希望する子どもに、ゆっくり対話や学習サポート（館林市委託事業）

子どもを尊重することや子ども自身が一つ一つ選ぶことを積み重ねることで、自己肯定感が高まっていると感じます。心身の安心・安全を感じることができたら、子どもたちは自ずと遊び、学んでいきます。対面でもオンラインでも料理や実験をしたり運動・遊んだり、たくさんの活動をしています。

対面の部では、陶芸もできるようになりました。オンラインでは、自宅で過ごしている全国の子どもたちと楽しく学び過ごしています。オンラインならではの「世界との交流」もあります。

また、保護者さんとも細やかに連絡を取り合っています。入会していない保護者さんからの相談も、いつでも対応しています（対面・ZOOM・LINE）。保護者同士が対面やオンラインでつながったり思いを伝えたりする場を開いたり、親の会を紹介したりもしています。

(3) フリースペース

アリスの広場の詳細はこちらから



フリースペースは、不登校やひきこもりがちな若者が出て行ける自由に開かれた場所です。

■ 「アリスの広場」は次へのステップの場（前橋市）

アリスの広場には小学生から 30 歳位までの幅広い子ども・若者が来ています。状況も不登校や家にこもりがち、通信制学校に通っている子、社会人経験もある若者など様々です。過ごし方もそれぞれで、支援者やボランティアさんとおしゃべりしたり、慣れてきたら若者同士でおしゃべりしたり遊んだりしています。静かにマンガを読んだり絵を描いている子もいます。



雑談している中でふと、悩みごとだったり、自分の過去の事を話し始める子も結構多いです。私やボランティアさんに悩みや進路などについて相談することもあります。

この他、お料理会やクリスマス会、泊まりのキャンプなどイベントも開催しています。

<そっと背中を押してあげるタイミング>

この見極めが難しいのですが、家庭では親との関係が大きいと感じます。多くの場合、不登校やひきこもりになって 2~3 カ月程度では早すぎると思います（本人にまだ余裕がない）。

大切なのは雑談ができる関係性です。まずは不登校やひきこもりの子どもに対し、辛い時は無理をせず休んで良いと本心から本人に伝えることが大切です。その上で、情報提供は必要と考えます。

ただ、話せそうなタイミングで「こんな所もあるよ」とさっと伝えてみて下さい。私もそうでしたが、はじめは無反応、あるいは機嫌が悪くなるかもしれません。しかし、頭の片隅に残っているものです。私も父から居場所を教えられて実際に行ってみたのは 1 年以上経ってからでした。

<数年かかるのは普通。アリスの広場は次へのステップの場>

アリスの広場に来る若者は数年間通う子がほとんどです。その中で高卒認定試験を受けて進学や、アリスの広場での就労体験を経て、普通のアルバイトや正社員になった若者もいます。

これは私自身の体験からも感じていますが、若者は自分に自信がついて初めて次に進めます。そこに行くまでには家族や周りの理解、そして私たちのような第 3 者のサポートが必要なのです。

このようにさまざまな人と出会い、話したりする中で視野を広げて行くことで、次へのステップの場になればと思っています。

■ こころの発達支援を目指す「リカバリーカレッジ-小神明^{こじんめい}-プロジェクト（RCCP）」（前橋市）

2017 年に開設した RCCP は、所属の無い青年が心理的な発達や社会的な関係性に課題を抱えながら社会とのつながりを持ち、自分らしく生きるための一歩が踏み出せる支援を目指しています。



こころの発達に特性のある若者支援では、彼らの抱えている問題や課題、欠陥に対応する治療や指導の視点が重要です。一方で、生活者としての生きる力の礎となるこころの育みの視点は、見逃してはならないと考えています。

そこで、RCCP は、グループ支援のスタイルをとり、集う他者と共に昼食作り アクセサリー、アート制作、トークなどの活動を通して、自分の強み、個性、不得意に気付き、自分を丸ごと受け入れる「自己肯定感」の育みを大切にしています。「される人」から「する人」へ、そして「やりたいことができる人」への育みの場です。



RCCP の詳細はこちらをご覧ください



(4) 地域の居場所

悩み苦しんでいる親御さんへのメッセージでは、「ひとりで抱え込まずに、相談出来る人、場所があることを知って欲しいです。最初の一步の行動を起こす事は難しいかもしれませんが、支援して下さる方との繋がりは当事者もその家族も前に進めるきっかけになると思うので、助けを求めてほしいです。相談できる味方がいるので先の見えないトンネルからは抜け出せているのは確かです」といただきました。

地域のさまざまな居場所づくりに期待が高まります。

■ 障がい児者等家族支援サロン「よってこ」(みなかみ町)

よってこは、①病気や障がいのある当事者やその家族、②ヤングケアラーやきょうだいの方、③発達の遅れや問題行動、登校渋りなど子育てに悩みのある方、④不登校などで学校や家庭以外に居場所を必要としている子どもたちなど、「どこで、誰に相談したらいいかわからない」「周りに相談できる人がいない」という方が気軽に相談できる場を目指しています。

よってこの運営メンバーは、子どもが不登校、発達障害や知的障害、医療的ケア児の親やきょうだいです。まわりになかなか話しづらいことも「よってこ」では安心してお話しできます。必要があれば専門の支援につながる方法も一緒に考えます。また、サロン活動では、子どもが遊んでいる間に、保護者同士がお茶しながらゆったりお話できる時間を大切にしています。

＜つなげる支援先例＞ 役場、社会福祉協議会、障害者相談支援センター、フリースクール、子どもの居場所、子ども食堂など



よってこの詳細
はこちらから



■ NPO 法人じゃんけんぽん「みんなの居場所 近隣大家族」(高崎市)

「みんなの居場所 近隣大家族」は、子どもから高齢者まで、地域のみんなが大きな家族のようにいられる場所。誰でもいつでも自由に過ごせる居場所です。のんびり過ごすもよし、常連のお母さんたちに編み物や手芸を教えてもらうもよし、地域のお父さんたちに囲碁将棋を教えてもらうもよし、ボランティアとしてちょっとした作業を試みるもよし。アロマの日やラフターヨガなどさまざまなイベントも開催されていますので自分の興味にあわせていろいろの使い方ができる場所です。

居場所の利用は無料！日替わりランチ(570円)もあるので、のんびり一日を過ごすことも可能です。子ども食堂として中学生までは毎日 250円!!。学校に行けない日の居場所として活用する人もいます。夏休みなどの長期休みや祝祭日の子どもの居場所「宿題カフェ」には、高校生や大学生がボランティアとして居てくれることも。保育士・社会福祉士・キャリアコンサルタントなどの有資格者も常駐していますし、月に1回助産師・保健師が居場所に来てくれるので、お母さんたちがいろいろな気がかりについてちょっと相談することも可能です。法人内には障がい者のグループホームもあります。

引きこもりの状態から、まず居場所に来てみる、ボランティアを始める、研修に参加して資格取得する、就職するということに少しずつ段階を踏んで世界を広げ、今では職場で頼られる存在になっている先輩もいますよ。

近隣大家族の詳細
はこちらから



■ 群馬県ひきこもり支援のための広域的居場所づくり事業

ひきこもり状態の本人や家族が安心して出かけられる「居場所」を地域社会につくっていくことを目指して、令和5年度から「ひきこもり支援のための広域的居場所づくり事業」を委託により実施しています。 <https://www.pref.gunma.jp/page/647169.html>

